高体連会報
青春の躍動
発行
島根県高等学校体育連盟
TEL○852-26-3842
FAX○852-26-3695
編集◇高橋　泰幸
発行人◇高体連研究部
題字◇山本　興
印刷◇南松本印刷

平成二十九年度 高体連の活動を振り返って

島根県高等学校体育連盟
理事長　小松正道

事務局が松江商業高校から松江南高校に移転して、一年が経過しようとしています。生徒、教職員及び関係者の皆様のご協力により、滞りなく諸事業が遂行できましたことを心より感謝申し上げます。

今年度を振り返ると、栃木県（登山専門部）・群馬県（陸上部）の出来事ではありましたが、大きな事故が発生しました。運動部活動に携わるすべての指導者が、事故防止を最優先課題として捉え、指導の充実をお願いしたいと思います。継続議論されていることは、二〇二〇年インターハイ（東京オリンピック開催年）分散開催に向けて、開催地の決定と開催経費確保の問題です。インターハイ出場や全国制覇に向けて日々練習に励む高校生たちの夢を奪うことがないようにしなければなりません。島根県高体連としては、今年度も「インターハイ特別基金」を全国高体連へ納入します。皆様ご理解ください。また、体罰根絶全国共通ルールの適用状況は、全国的には件数が減らない状況が続いています。島根県としても、今後も指導者研修会等を実施し体罰防止に取り組みたいと思います。

さて、今年度の各競技の大会成績を総括すると、春の「全国選手権・選抜大会」では、八競技十五種目入賞。夏の「はばたき世界へ南東北総体二〇一七」では、九競技十二種目入賞。秋の「愛顔（えがお）つなぐ　えひめ国体」では、男女総合八〇六点三十八位（二十三年ぶりの三十位台）の好成績でした。その要因は高校生の活躍でした。（得点全体の約七割を少年種別が獲得）中でもインターハイ一回戦敗退から国体優勝の結果を残したホッケー少年男子の成長ぶりに感動しました。また、高校生の無限の可能性を感じることが出来た大会でもありました。

今年度最後の行事は、一月十八日・十九日に行われた第五十二回全国高等学校体育連盟研究大会（島根開催）でした。大会テーマは、「スポーツが結ぶ縁～高校生アスリート、世界へ、そして未来へ～」大会参加者は、全国から約五〇〇名の参加があり、県内役員は、学生ボランティアを含めて約一〇〇名で準備・運営して参りました。大会の第一部は、シンポジウムです。「二〇二〇年へ向けて～高体連研究部の新たな使命～」をテーマとして、当面する諸問題について情報交換を行いました。第二部では、全国各地で熱心に研究に取り組む高等学校体育・スポーツの指導者が、日頃の研究成果を「競技力向上」「健康と安全」「部活動の活性化」の三分科会で十二題の研究テーマについて発表が行われました。内容はすべて、今後の部活動指導の参考になる研究内容でした。第三部の講演では、土江寛裕氏に「スプリントで世界と戦う」と題してのお話をいただきました。競技者として、また指導者としてどうあるべきかのヒントをいただけました。

全国高体連研究大会島根県開催に向けて三年がかりの準備となりましたが、その間ご指導・ご支援・ご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

今後も高校総体という生徒の夢の舞台と研究大会という指導者の研鑽の場の両輪が円滑に機能するように、平成三十年度も事業推進に努めて参りたいと思います。

特集　伝統校!!栄える全国大会での活躍!!　～全国選手権大会・全国選抜大会～

「高校ラグビーを終えて」

石見智翠館高校　ラグビー部
川瀬　諒太

全国高校ラグビー大会、花園の三回戦、石川県代表の日本航空石川とのベスト8をかけた試合。前半から何かがおかしかった。終わってみれば結果は14対42という大敗だった。二回戦、シード校に選ばれた初戦は大阪代表の名門、常翔学園と対戦し勝利した。ビッグゲームを制した次の試合は春からの課題だったのでとても悔しさが残った。私達は一月に新チームが始動してからずっと、〝全国制覇〟を目標に練習に取り組んできた。私達には昨年、一昨年の主将のような絶対的なリーダーはいなかった。その分それぞれが考え、苦しい練習も声を出して乗り切ってきた。それが逆に全員にリーダーシップを持たせ、これが今年のカラーだと自信を持っていた。四月の全国選抜大会では接戦を制し五年ぶりのベスト4を決めた。島根県代表として出場した愛媛国体でもベスト4の結果を残す事ができた。それだけに花園でまさか三回戦で負けるとは思わなかった。そのおごりが結果に表れてしまった。後輩たちにはまず一戦一戦を大切に全力で挑み、花園で優勝する事で私達の悔しさを晴らしてもらいたい。

この三年間、私達は本当に色んな人々に支えられて今までプレーすることができた。多くが寮生活で遠く離れているにもかかわらずいつも私達のことを考え支えてくれた保護者、壮行会まで開いてくださった地域の方々、そして私達を優勝に導くために熱心に指導してくださったコーチ、監督、トレーナーのスタッフ陣。最後の花園で全国優勝という形で恩返しをすることはできなかったが、本当に感謝の想いでいっぱいだ。これから私達は卒業していくが、私達がここで学んだことはラグビーだけではない。この先の人生でも島根での三年間を思い出として乗り越えていきたい。そしてほとんどが大学でもラグビーを続けるので、新たなステージで石見智翠館高校出身の選手として活躍する事で恩返しがしたいと思う。石見智翠館高校ラグビー部に入部して、この最高の仲間たちと一緒に寮生活をし、この最高の環境でプレーをすることができて良かった。本当にありがとうございました。

「全国で戦うために」

出雲工業高校　陸上競技部
主将　原　周平

高校二年生の全国高校駅伝が終わり、私たちがチームの柱となって引っ張ることになりました。しかし、思うようにチームがまとまらず苦しい思いをしました。全員が様々な合宿を経験して、夏の厳しい練習を終える頃には少しずつまとまりのあるチームになっていき、私も自信をつけることができました。

迎えた県高校駅伝ではベストオーダーを組むことができ、優勝することができました。県高校駅伝が終わっても気を抜かず、風邪やケガに注意して日々の生活を大切にして練習に励みました。万全の状態を作るために、例年とは違ったスケジュールで全国高校駅伝に向けた計画が立ちました。そして、そのおかげでほぼ全員の選手が「調子が良い」と話していました。私は二十番台にいけると思いましたし、しかし、レース本番は厳しいレース展開となり、目標としていた二十番台に入ることはできず、昨年と同じ三十九位でした。

全国で戦うためにはチームの意識を変えていくことが必要です。全国の強豪校とは雰囲気や姿勢、チーム力という面でまだまだ劣っています。次のチームでは、雰囲気作りをしっかりとして、まとまりをより一層強めてもらいたいと思います。また、私は主将になり、地域の方や保護者の方からとても期待されていることを知りました。応援や支持して下さる方への感謝の気持ちがあるからこそ苦しい練習にも耐えられたと思います。

後輩たちにも、感謝の気持ちを忘れずに日々の練習に取り組んでほしいと思います。そして、来年こそは二十番台に入り、応援して下さっている方へ少しでも恩返しができるよう励んでもらいたいと思います。

「最後の春高」

安来高校　女子バレーボール部
副キャプテン　山本実侑

私たちは第七十回全日本バレーボール高等学校選手権大会、春の高校バレーに出場しました。これまで三回全国大会に挑戦しましたが、自分たちの力を十分に発揮することができず、初戦で負けてばかりで悔しい思いをしてきました。この大会が私たちにとって全国への挑戦で、いつも以上に勝ちへの気落ちは強かったと思います。

一回戦は石川県代表の金沢商業高校との対戦でした。この夏のインターハイでベスト8という好成績を残した強豪チームでした。試合中は苦しい場面が何度もありましたが、コートの中で目を合わせたり、コートの外のメンバーと声をかけ合ったりと、全員バレーで接戦を勝ち切ることができました。全国大会での初勝利は「やっと勝てた」という思いがこみ上げ、とてもうれしかったです。

二回戦は北海道第2代表の大谷室蘭高校との対戦でした。試合はずっと競った試合で、正直力の差はほとんどなかったけど、負けてしまいました。目標であった「全国二勝」まであと一歩届かず、もっと何かできたのではないかと悔しい気持ちになりました。やはり、全国の壁は高かったです。しかし、安来高校として九年ぶりの初戦突破を果たすことができたことは、素直にうれしく感じました。高校バレーボール憧れの、東京体育館のオレンジコートでプレーできたことは、本当に楽しくて最高でした。

この三年間でいろいろなことがありましたが、どんなに辛いことがあっても同学年の十五人の仲間と乗り越えることができました。さらに、たくさんの方々に支えられ、応援していただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私は大学に進学し、これからもバレーボールを続けていくので、安来高校女子バレーボール部で学んだことを生かして、頑張っていきます。これまで支えていただいたすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

全国大会に向けて!!　～全国選手権大会・全国選抜大会～

「大会に向けての抱負」

松江東高校　アーチェリー部
峯谷斐芽

三月二十六日から静岡県掛川市で行われる全国選抜大会に出場します。アーチェリーの大会は七〇メートル先にある的をめがけて6×12の72本の矢を放ち、得点を競う競技です。

私は、高校からアーチェリーを始めました。一丁寧に指導してくださる先生方、明るいチームメイトと共に練習に励んでいます。今回の大会は私にとって初めての全国大会です。とても緊張し、プレッシャーも感じていますが、全国のレベルを体感し、一つでも多くのことを学んで帰ってきたいと思っています。

全国は特別な舞台です。昨年は国体中国ブロック大会に出場しました。そこでの私の結果はとても悪く、自己ベストも更新することができず、とても悔しい思いをしました。また、県外や全国の壁の高さを痛感しました。大会を通しての反省点は、72射打つ間高い集中力を保つことができず、また、筋力不足から後半射形が崩れてくることでした。そこで私は日々の練習から常に本番を意識し、打つ前、打った後、次に打つまでの間の使い方に意識を置いています。練習中も集中力が悪い途切れ方をしないよう注意しています。冬期は天候が悪く室内トレーニングが多くなります。前回の反省をいかして、筋力アップにも励んでいます。きついトレーニングも、仲間と一緒に目標をもって取り組むことで楽しくやれるようになりました。

今の私には全国で通用するような力があるとは言えません。練習環境も七〇メートルを打てるところがなく、他の部活動に協力してもらい、グランドで数回打つ程度です。心細く不安もありますが、数少ないグランド練習を有効に活用し、協力してくれている他の部活動に感謝しながら、一射一射丁寧に練習していきます。

さらに、高校部活動最後のインターハイにつなげる大会にすることも重要です。今回出場できないチームメイトと共に団体戦での出場を目指しています。そこで松江東高校らしい粘り強い戦い方をし、全国の舞台で競えるよう、経験を積んで来ようと思います。

今大会では、日々熱心に指導してくださる先生方、応援してくれるチームメイト、各種大会でお世話になっている県の連盟の方々への感謝を忘れず、最後の一射まであきらめずに頑張ってきます。まずは自己ベスト更新です。

島田市役所提供写真

山口陽子先生の講演

「全国高体連研究大会（島根大会）を終えて」

島根県高体連研究部
委員長　神門良博

本年度は、島根県で初めての開催となる第五十二回全国高等学校体育連盟研究大会が「スポーツが結ぶ縁～高校生アスリート、世界へ、そして未来へ～」をスローガンに掲げ、平成三十年一月十八日（木）・十九日（金）に島根県民会館において開催されました。この大会は（公財）全国高等学校体育連盟に加盟する各高等学校体育・スポーツ指導者の資質の向上を図るため、日頃の研究成果を発表するとともに、当面する諸問題について情報を交換し、高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興・発展に資する。という趣旨で開催されています。

運営にあたり県内の九十名以上の先生方にご協力いただき成功に終えることができました。あらためてお礼申し上げます。

発表については、本県より第2分科会「健康と安全」において「部活動における心の健康と安全―こころの支援に向けた実態調査から―」というテーマで、邇摩高校の山口陽子先生に発表していただきました。これは、二年前の島根県内の高校三年生を対象にアンケートを行い、実態調査に基づいて発表したものです。この発表は、教育現場において直面する課題に向き合ったことや、研究内容が今後の発展性があると高く評価され、優秀研究発表に選ばれました。

また、歓迎のアトラクションとして、浜田商業高校郷土芸能部の生徒の皆さんに石見神楽「大蛇」を披露していただきました。県外の方には、珍しいようで大変喜んでいただきました。以下、大会当日の様子を写真でお伝えいたします。

▶インターハイ公式キャラクター　ウィニーインハイ

会場（島根県民会館）

歓迎アトラクション（浜田商業高校　郷土芸能部）

講演　東洋大学　教授　土江寛裕氏

（有）ヨネザワ写真館より提供